

Title	近世日葡通交小史(岩生成一著, 葡國副領事藏版)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.1 (1928. 3) ,p.149- 150
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280300-0153">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280300-0153</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(シャルポアの如き)等種々の説あり、之れ畢竟、種々の記録に見えたる葡人の氏名を異にするより起れる論なることは云ふまでもない。今之等種々の記録に見えたる人名を表示すれば凡そ次の如くである。

ピント巡廻記	文之鐵炮記	ガルパン諸國發見史 コート・アジア十篇史	エスカラ ンテ報告
デイゴ・ゼイ モト	牟良叔舍	アントニオ・ダ・モ タ	二人の葡人 (人名を記 さず)
クリストワー ン・ポラリヨ	喜利志多佗 孟太	フランシスコ・ゼ イモト	
ピント		アントニヨ・ハイ シヨット	

いづれ之等五種の記録も恐らく同一の事件を取り扱つたものであらう。然し之を徒らに氏名を置換接合してあへて符合せしめんとして技巧に過ぎたるは如何なるものであらうか。

なほ本書を通讀するに當つて不快に思つたのは餘りに誤植の多きことである。添へられたる正誤表の他になほ多數の誤植がある。本の性質上殊に遺憾に感じた。

最後に非賣品たる本書を特に惠與せられた東京外語のピント先生に謝意を表しておく。(吉田小五郎)

### 近世日葡通交小史

(岩生成一著  
葡國割領事蔵版)

日歐間の交渉開始の日は、即ち葡萄牙人渡來の日で、同日は我

書評

近世史上重大なる意義を有する。この渡來に據つて、我が戦術上に一大變革を與へた武器即ち鐵砲の傳來あり、次いで徳川幕府の蛇蝎視せる耶蘇教の傳播等あつて、爾來約一百年間、布教の禍よりして國交斷絶に至るまで時に波長は免れかれざるも兩國の親交は繼續し、其の間精神的に將た物質的に我國文物發達等に貢獻したる處甚大である。然るに其の通交の史實、文化輸入の事迹等に於て、未だよく世に現れざるものがある。大阪の藤澤友吉氏、多年葡國名譽副領事として兩國通商上に盡力せられて居るが、常にこれを遺憾として、今次同方面の史實に精通の岩生文學士に囑して如上の事實を略述せしめ、題して『近世日葡通交小史』と稱し、上梓の上各希望者に頒布せられた。筆者も亦其の惠贈に預つた一人で、この奇特な藤澤副領事の企畫に敬意を表し、且つ著者岩生氏の勞を謝す爲めに本書を紹介する次第である。本書は凡そ四章に分たれて居り、

第一章葡萄牙船渡來以後織田時代に至る通交に於て、葡人の渡來より耶蘇の傳來と其の傳播と九州諸港の葡萄牙貿易に就て説き、

第二章豊臣時代に於ける通交に於て、秀吉の禁教令とゴアの使節並に九州耶蘇教學林の盛衰を述べ、

第三章徳川時代初期に於ける通交に於て、家康の開國方針、有馬氏の葡船擊沈、耶蘇教禁壓と葡貿易の逼迫並に島原亂に因して兩國通交の斷絶に至る次第に及び、

第四章日本と葡萄牙との文化關係に於て、活字印刷機の將來と兩國文學上の交渉、洋畫の傳來と銅板畫の版行、醫術と耶蘇教傳

(R.K.) 一四九

播との關係、洋服服飾品飲食物の流行、科學及び航海の發達、時計の輸入、鐵砲の將來、我が採鑛冶金術の進歩並に歌留多の流行の次第等を記して居る。猶、本文末には『近世日葡通交略年表』と附し又挿畫として參考なるべき寫真等數葉を添へてある。

要するに本書は説明極めて簡明要約一讀して、よく兩國通交の跡を偲べしめる。又卷末に添へられた本邦駐劄葡國公使の跋文は本文讀了後に必讀の價値ある事を附言して摺筆する。(昭和二年十月廿九日武田勝藏)

寄贈交換圖書雜誌目錄

- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| 禪學研究 第五                | 臨濟大學禪學研究會 |
| 歴史と地理 廿の六、廿一の一、二。      | 史學地理同友會   |
| 江戸軟派研究 三の十八、十九、廿。      | 江戸軟派研究會   |
| 風俗研究 九一、九二、九三。         | 風俗研究會     |
| 國民經濟雜誌 四三の六、四四の一、二。    | 神戸高等商業學校  |
| 歴史教育 二の九、十、十一。         | 歴史教育研究會   |
| 藝文 十八の十二、十九の一、二。       | 京都文學會     |
| 考古學雜誌 十七の十一、十二、十八の一、二。 | 考古學會      |
| 刀劍と歴史 二〇四、二〇五、二〇六。     | 羽澤文庫      |
| 備後史談 三の十二、四の一、二。       | 備後郷土史會    |
| 土佐史談 二一。               | 土佐史談會     |
| 神社協會雜誌 廿六の十一、十二、廿七の一。  | 神社協會      |

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 考古學研究 第二輯            | 考古學研究會       |
| 觀想 四四。               | 東洋大學圖書館觀想發行所 |
| 東洋文化 卅三、卅四、卅五、四四、四五。 | 東洋文化學會       |
| 神道學雜誌 一、二、三。         | 神道學會         |
| 龍谷大學論叢 二七七。          | 龍谷大學論叢社      |
| 日本文化 廿四、廿五。          | 黑見日本文化研究所    |
| 聖賢遺書新釋叢刊第二玉陽明詩鈔      | 金雞學院         |
| かたな 三二〇、三二一。         | 中央刀劍會        |
| 人類學雜誌 四二の十二、四二の附録    | 東京人類學會       |
| 筑紫史談 四二。             | 筑紫史談會        |
| 國學院雜誌 卅四の一、二。        | 國學院大學        |
| 刀劍研究 十四の一、二。         | 南學研究會        |
| 史林 十三の一。             | 史學研究會        |
| 史學雜誌 卅九の一、三。         | 史學研究會        |
| 民族 三の二。              | 民族發行所        |
| 東洋學報 十六の四。           | 東洋學協行會       |
| 奈良文化 十三。             | 奈良文化編輯部      |
| 雲泉莊山誌 卷の一。           | 杉浦丘園氏        |